

レンギョウ(連翹)



写真1



写真2



写真3



写真4

(写真はいずれも東京理科大学 薬用植物園 4月撮影)

基原植物：レンギョウ *Forsythia suspensa* VAHL. / シナレンギョウ *F. viridissima* LINDL.

科名：モクセイ科(Oleaceae)

属名：レンギョウ属(Forsythia)

形態：樹高3メートルほどの落葉性低木。新梢は、夏の間は緑色をしているが、冬には濃い褐色となる。長花柱花、短花柱花の二株をもつ二形花柱花(写真2)であり、レンギョウが3~4月、シナレンギョウが4~5月に花を咲かせる。またともに中国原産である。葉は鋭尖頭をなし、対生葉序である(写真3)。

成分：リグナン arctiin, phillyrin, matairesinol、フラボノイド rutin、トリテルペノイド oleanolic acid など

薬用部位：果実(さく果) 大粒、茶褐色のものを良品とする。

用途：漢方で消炎、利尿、解毒、排膿などを目的に使われる。神農本草経によると、「寒熱(かんねつ)、鼠瘻(そろう)、瘰癧(るいれき)、癰腫(ようしゅ)、悪瘡(あくそう)、癭瘤(えいりゅう)、結熱(けつねつ)、蠱毒(こどく)を主る。」とあり、清熱、解熱し、瘀血を除き、腫れを消すとされる。レンギョウとハッカを合わせることで熱性疾患初期の発熱・咽喉炎を治す(響声破笛丸)。主な配合処方響声破笛丸、荊芥連翹湯、防風通聖散など。

その他：レンギョウは早春に、春を待っていたかのように鮮やかな黄色い花を咲かせることから「かなえられた希望」、「期待」「集中力」などのポジティブな花言葉がつけられている。またその花の様子から「golden bell」と呼ばれることもある。

参考文献

根本 幸夫 監,漢方 294 処方 生薬解説,2016,じほう, p.67-68/天然医薬資源学 第6版,2017,廣川書店,p.166-167 /水野 瑞夫 監,薬用植物学 改訂第7版,2015,南江堂,p.33-44,p.217